ARCHITECT

NO.314

2014. 11. NOV.

CONTENTS

自作自演185 ……小澤幸吉・古川栄男・三輪　彰 …… 2
JIAに入会して ……井村正和・上原徹也 …… 3
第４回　水生生物との関わり
アフリカマナティー ……古田正美 …… 4
最終回　必ず起きる地震と災害に備えよう
55年前の小学生の作文展示 ……川窪　巧 …… 6
JIA静岡発　JIA静岡デザインフェア「木」を見つめ直す
村松　篤・石橋　剛・亀井暁子・八木紀彰 …… 8
JIA愛知発　建築相談委員会 石川真司弁護士講演会「建築トラブル回避法」… 竹中アシュ ……10
JIA愛知発　プロフェッショナルセミナー愛知2014−建築家実務講座−「構造」シーズン2
第1回「建築家と構造家のコラボレーション」
―構造計画が意匠にいかに生かされるか― 講師：渡辺誠一氏 …高嶋繁男 ……11
JIA岐阜発　第２回「岐阜各務原キャンプ前プロジェクト」ワークショップ
ものづくりイベントと空き店舗活用を提案 ……寺下　浩 ……12
JIA三重発　災害に備える　JIAと奈良の市町が災害時応援協定を締結…奥野美樹 ……13
JIA三重発　森羅万象匠塾　版画家 立原位貫氏
「木版画 江戸から現代 その変遷を通して見えてくる日本の力」……森本昭博 ……14
JIA東海支部講習会 ……青山仁志・鈴木利明・植野　收 ……15
私の意見　コンペについて　若者に公共建築設計のチャンスを ……伊藤恭行 ……16
Bulletin Board ……17
▶東北からのメッセージ
遠方よりの派遣職員と模索する「魅力的な災害公営住宅とは何か」……手島浩之 ……18
▶東海の減災を考える
名古屋大学減災連携研究センター　講演会・減災館レポート ……吉元　学 ……19
保存情報156　瑞雲山龍興寺本堂 ……澤村喜久夫 ……20
斉年寺 ……藤田淑子 ……20
理事会レポート ……石田　壽 ……21
東海支部役員会報告 ……水野豊秋 ……22
東海とっておきガイド㉒　三重編 ……池澤邦仁 ……23
地域会だより ……23
法人協力会通信⑭　株式会社ムトー ……武藤　孝 ……24
編集後記 ……吉元　学・生田京子 ……24

Intuition Ⅶ

謎の架構は謎のままに

今回はフリーライターで写真家の加美秀樹氏に紹介いただいた物件。見た瞬間、度肝を抜かれた。これは一体なんなんだ？

長屋の端、屋根の上に物々しい架構。前面の構造フレームから右に飛び出してテラス床が設置されている。この床だが、スキップしている上に、中間部分で吊り構造になっている。メインのフレームは棟積みの瓦を越して反対側まで伸びているようだが、どこまで伸びているかは確認できなかった。

しかし、なんと言ったら良いのだろうか。構造的にチャレンジングなのは間違いない。設計者であれば、心にグッと来るものがあるはずだ。テラスの上には箱のような小部屋もある。離れ？ まさか茶室？

ふと手前の柱を見ると左の柱には街灯が、そして右の柱には荷物エレベータが付いている。使えるものは使い倒す、一切無駄にしないぞという姿勢があちこちに現れる。

手作り感満載、突っ込みどころ満載の、この構造物の用途は何であろうか？ 物干し台にしては大げさすぎる。謎は深まるばかりだ。

加美氏にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

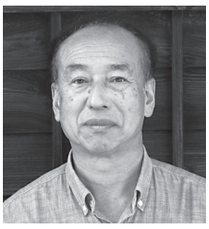
面白い建物や空間があればこのメールアドレスまでぜひ連絡頂きたい。ネタ切れ寸前です。

yokozeki@vfweb.jp

横関浩｜STANDS ARCHITECTS

11_アーキテクト.indd 1　14.10.22 3:26:00 PM

自作自演(185)



小澤　幸吉（JIA静岡）

NPO法人 静岡文化・創造協議会理事（静岡市葵区安西3-20　TEL 054-253-4359）

駿府城天守考

静岡市が進める、第3次市総合計画（3次総）の骨子案が発表された。この中に、駿府城天守閣の基礎部分に当たる「天守台」の復元事業とそれに伴う発掘調査が盛り込まれた。

静岡市は、最終的に天守閣の再建を目指す。平成2年から始まった市民運動も実を結んだことになった。本当のところ、これからが、いろいろな意味で真剣勝負である。武士の情けで、普通、天守台は残してくれるが、壊されてしまった。このことについて、あまり市民の議論は聞かれない。

天守閣をつくる目的は、まちのシンボル（静岡市の顔）、観光の拠点、防災上の避難施設（知事試案）の順である。天守の活用の仕方によって、どうつくるかが決まる。

長い活動のなかで、「指図」の説明が大変であった。誰もが図面が先にできて建物が完成すると思っている。建物ができた後に、指図がつくられるというのが理解されなかったことだ。

指図が発見されてから、つくればいいという意見があった。これでは永遠にできないことになる。家康の御殿の指図があるのに、なぜ天守のそれは存在しないのか。家康の死後、天守は「聖所」になったためである。つまり久能山東照宮の社殿「聖なる空間」の指図も同時にないわけだ。

江戸幕府が入札をやるようになってから、図面が先にできるようになった。

古川　栄男（JIA愛知）

C＆C設計（名古屋市中区栄1-22-16　ミナミ栄ビル801　TEL 052-201-9208　FAX 052-203-9558）

30年

来年は、事務所を開設して一つの節目となる年を迎える。

「社会」は 文字通り『無常』な世界である。景気動向・政権交代・家庭内暴力・国際競争力・少子高齢化・心の病…。自然も、社会も、人々も常に変化しつづけ、振り返ってみると、世界一平和で、安心で、安全で、豊かな国と誇りを持っていた愛する日本が、1980年代のバブル期から1990年代に入り一気に経済は減速し、四半世紀と長きの低迷期に、いつの間にか「病んだ国」へと変化してきている。

いつの頃からか人と人との繋がりは希薄となり、お互いを気遣い、助け合う心が失せていき、それぞれの責任の線引きを明確にする自己責任の世界は、自利利他の＜皆の幸せを願う心＞とは 真逆に変化しているようで憂いている。

一方、設計事務所の職域はハードのクオリティアップのみならず、人々の信頼・納得・喜び・感謝…とますます心の満足度.価値観の原点が求められ、評価される時代となってきたように感じる。

「我が心」は『常住』すなわち、周りの変化にとらわれず、常にバランスのとれた状態で存在する。今まで心掛けてきた価値観である。

その結果、社会の変化に巻き込まれず、浮かれず、落ち込まず、不変の価値観を大切に持ち続け、バブル期にも膨らませず、低迷期にも縮小せず、これからも不動の価値観を持ち続け、一生現役を宣言し、次世代に誇りと喜びと感動を伝え続けたい。

11_アーキテクト.indd　2　　14.10.22　3:26:00 PM

三輪　彰（JIA 愛知）

ミワ設計室（名古屋市瑞穂区岳見町3-4-12　TEL 052-831-3993　FAX 052-831-3222）

オジンライダーを目指して

あれは8年前、50年来の友人「H」が我が家にやってきた。彼は颯爽とバイクにまたがり「10代の頃の夢を実現させた」と嬉々とし、満面の笑みと格好よさを見せつけて帰っていった。

1年後、小生も還暦を機に一大決心し、近場の教習所に通うことにした。若い人に混じって楽しい教習、のはずが開始早々、生来の度胸のなさが災いして初乗り教習でカーブが曲がり切れず場内ガードレールに突っ込み教習車を壊した。教官たちも大いに驚き、その後は通常とは違ったメニューで特別扱いとなり、少々時間はかかったものの熱心な指導のおかげで無事免許取得を果たした。

さあバイクを買ってライダーデビューだ！　しかし問題が。妻殿にはすべて内緒なのだ。昼間は仕事で不在のため小生の教習所通いにも気づいていない妻殿…。ある日意を決し、買ったばかりのバイクを前に妻殿の帰りを待った。

妻殿の第一声「何よ、これ!」、続いて「〇〇配達でもやるつもり?」、とどめ「まさか写真撮ってなんて言わないでしょうね!」、ガーン…（我慢、我慢、ただただニコニコ）　妻殿はそれ以上何も言わなかったが、翌日、以前テレビで紹介された「バイク用エアバック着用」との指導が出た。こうして何とかオジンライダーデビューを果たすことができた。

あれから7年、友人「H」と共に、近場はもとより夏の北海道にも2度行き、ツーリングの爽快感を十二分に味わいバイクライフを楽しんでいる。すでに高齢者の仲間入りをしたが、まだまだオジンライダーを続ける所存だ。そして元気なうちに、ぜひとも妻殿を乗せてタンデムツーリングを楽しみたいと願う今日この頃である。

JIAに入会して

井村　正和（JIA愛知・正会員）

井村建築設計　一級建築士事務所
（春日井市高山町2-11-1
TEL 090-4167-6413
FAX 050-5865-2704）

私はいわゆる「人見知り」である。致命的だな、と思いつつも自分の事務所を立ち上げなんやかんやで気がつけば早10年、2回も事務所更新をしてしまった。東京での事務所勤務を経て名古屋で事務所登録、そして2年前に生まれ故郷である春日井に戻ってきて住居と事務所を構えた。あ、こういうのを「都落ち」と言うのかな？なんて思いつつ、生まれ故郷とはいえ20年も離れていた地元との繋がりの薄さを実感し少々驚いた。そんな折、縁あってJIAに入会させてもらい、想像以上にさまざまなタイプの方々と（失礼）お会いすることができ刺激を受け、自らのアイデンティティを再構築している最中。いつまでも草食系人見知りではなく、早く肉食系一匹狼に進化したいものである。

上原　徹也（JIA愛知・正会員）

ファンズマイル／上原設計
（名古屋市昭和区安田通2-3 巴荘ビル2F
TEL/FAX 052-717-8007）

「住めば都」。どんな場所であっても、住み慣れると居心地がよく思われてくるということわざ。使い勝手は大変良い言葉ではありますが、建築設計に携わる者としては、多少の“調子の良さ”を感じます。かく言う私自身もお調子者な気質。独立して5年が経った今、その性分からか妥協を許してしまう場面もあります。

そんな折でのJIA入会へのお誘いの声。所属するには少し早いのではないかと思いましたが、その活動を通して、建築に対して真摯に向き合う方々に刺激を受けながら、己の未熟な“居心地”を追求していきたいと考えています。

11_アーキテクト.indd　3　　14.10.22　3:26:02 PM

水生動物との関わり 第４回

「アフリカマナティー」

古田正美

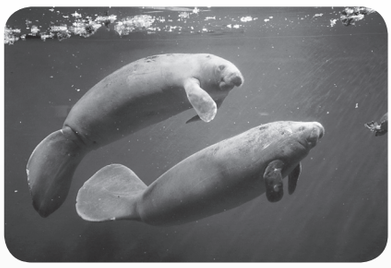
第３回で「ジュゴン」を紹介しましたが、もう一つの海牛類「人魚」を紹介します。手前味噌になりますが、ジュゴンとマナティーを飼育しているのは世界で唯一鳥羽水族館だけです。

私たちがアフリカマナティーに興味を抱いたのは、1980 年７～８月に鳥羽水族館の片岡照男副館長（当時）が、鯨類・海牛類の世界的権威であった西脇昌治先生と地球一周の海牛類調査を行ったことにさかのぼります。アフリカでの調査は聞き取り調査が主で、マナティーには出会えなかったようです。その後 1994 年に、私たちが西アフリカのギニアビサウへ調査に入るまでは、その存在は知られていたにもかかわらず、研究者たちの間ではアフリカマナティーの生態や体の大きささえ、ほとんど知られていませんでした。

西アフリカの生息地ではマナティーは食用にされるだけでしたが、IUCN（国際自然保護連合）によって 2000 年ごろから保全と保護が行われるようになりました。さらに、2013 年には、ワシントン条約付属書 II から I へリストアップされ、商業目的による国際間の取引が禁止され、保護の強化が行われています。

⊙ アフリカマナティー

マナティーは大きく分けて、アマゾンマナティー、アメリカマナティー、アフリカマナティーの３種が知られています。ジュゴンと同じ海牛目で、熱帯から亜熱帯地域の大西洋沿岸や大西洋に流れる河川に生息しています。



アフリカマナティーのオスとメス

体型はジュゴンよりやや扁平で、尾ビレが団扇型で顔が小さく、前肢が長いのが特長です。アフリカマナティーとアメリカマナティーの前肢には爪がありますが、アマゾンマナティーにはありません。ジュゴンのような象牙質の牙はありません。寿命は 70 年ぐらいと推定されています。

また、アフリカマナティーは大食漢で、1 頭が 1 日に 40kg ほどの草を食べます。野生下ではウォーターレタスやミズオジギソウなどを食べていますが、雨期には川の氾濫で水没した田んぼに入り、好物の稲を食べています。飼育下では残留農薬を考慮して稲は与えていません。鳥羽水族館ではイタリアンライグラスやソルゴ、オーチャードなど競走馬用の牧草を与えています。また、ニンジンやゴウボウ、サツマイモなどの根菜類も好んで食べます。畑で収穫できる植物を食べるので、ジュゴンと比べエサの入手が容易な動物です。

アフリカマナティーは成長すると 3m、体重は 1000kg ほどになります。目は小さく視力は役に立たないようですが、時折水面から顔を出し、陸上の景色を見て自分のいる場所を確認しているようです。体毛は細くてまばらに生えています。飼育して判ったことですが、背中に生えた毛でエサかどうかの判別ができるようです。生息地はテレビや新聞のニュースで頻繁に報道されているエボラ出血熱が流行している西アフリカのコーヒーにクリープを入れたような褐色の河川です。

アフリカマナティーの住むゲバ川

⊙ ゲバ川調査

私たちは、1994 年 12 月にギニアに隣接するギニアビサウを訪ね、ビサウ動物園のドイツ人の園長と共にサバナ地帯を流れるゲバ川の調査を行いました。首都ビサウでの聞き取り調査で、アフリカマナティーが生息するバファタ（地名）へは船で行くのが早道との情報を得て、チャーターした小船でかつて奴隷の積み出し港として栄えたというビサウ港からゲバ川を遡上しました。このとき、私たちは西アフリカ海岸の干満の凄さを初めて体験することになりました。

11_アーキテクト.indd 4 14.10.22 3:26:09 PM

下流では海の潮が引きはじめたと思ったら、瞬く間に船は河床に着底し、私たちはわずかなチョコレートで飢えをしのぎ、霧で濡れた体は冷え、心細さの中で夜を過ごしました。

河床に着底した船

さらに恐ろしいことに、夜半には河口からゴーゴーと想像を絶するもの凄い音をたてて潮が遡り、星明かりの下で幾重にもの白い大きな壁のような波が押し寄せてきました。川幅4キロ以上もある大河の真ん中、押し寄せる津波のような中で生きた心地はせず、船を波に垂直に立て甲板上で右に左に飛び跳ねながらバランスをとることで幸運にも転覆を免れました。今に思えばよく生きて帰れたものだと思っています。ただ、上流へ行くと様子は一変し、水の流れが判らない上流・下流方面の判断の難しい不思議な河でした。

アフリカマナティーはそんな河の上流の河幅100～120m、水深は乾期で3.5m（雨期6m）の水域に生息しています。川岸にはクロコダイルが横たわり、川辺のジャングルにはパタスザルやヒヒが住んでいる、いかにもアフリカという自然豊かなところです。

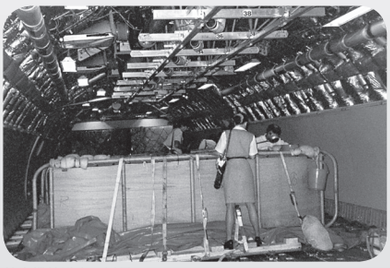
⊙ 飼育の歴史

ドイツのハンブルグの動物公園（現存していません）で1887年に飼育されたのが初めてで、いつごろまで飼われていたかは不明です。

ベルギーのアントワープ動物園では4回の飼育記録が残されています。1923年に当時のベルギー領コンゴで捕獲したマナティーを飼育し、2回目は1948年～1952年に、3回目は1953年に飼育したが短命のようでした。そして、1954年10月29日から1970年3月12日までオスが飼育されており、これが長期飼育の世界記録でした。その後、コートジボアールのアビジャン動物園で1980年に飼育計画があったようですが、飼育したという記録は残されていません。

このように世界でも飼育された記録が少ない動物です。鳥羽水族館は1996年にギニアビサウに調査・捕獲隊を派遣し、バファタ近くのカペという小さな町で漁師の地引網で2頭を捕獲しました。畜養地のカペからトラックで首都ビサウへ移送後、チャーター機で名古屋空港へ30時間かけて1ペアを持ち帰りました。

ゲバ川河畔に設置した畜養タンク


航空機輸送中の風景

その後、台湾の花蓮海洋公園が西アフリカから3頭を入手しましたが、1頭だけが生存しています。韓国ではソウルのCOEX Aquariumで2頭が飼育されています。

さらに、鳥羽水族館は2011年にギニアからメス1頭を搬入して3頭を飼育していましたが、1996年にギニアビサウから来たメスが2014年に死亡したために1ペアの飼育になっています。このようにアフリカマナティーは日本、台湾、韓国の3施設で僅か5頭が飼育されているだけです。

⊙ ギニアビサウ

西アフリカのギニアビサウは、北緯12度付近に位置し、6月には気温が54℃にもなります。クリスマスのころの朝5時でも36℃もあり、熱帯の国です。

当時、私たちはパリで乗り換え便を4日待ち、スペイン領カナリア諸島で数時間のトランジットの後、日本から6日かけて首都ビサウへ到着しました。ポルトガルから1973年に独立した人口170万人ほどの小さな国です。私たちがマナティー調査で宿泊したカペの河畔のコテージは、ポルトガルから来るハンターが宿泊する施設で、チンパンジーのロミオとジュリエッタの2頭が放し飼いされていました。そんなのどかなところですが、当時のギニアビサウは衛生状態が悪く、人が飲料水を調達したり洗濯場でもあるところで牛が水を飲み、コレラが大流行していました。

ふるた・まさみ
鳥羽水族館　元館長　（公益）日本動物園水族館協会会友
昭和23年（1948年）生まれ。三重県立大学水産学部卒。
専門は水生動物の飼育と研究。
著書に『いたずらっこのチャチャ』（学研）、『海獣水族館』（共著　東海大学出版会）、スナメリ（共著　月刊海洋2003年8月号）など。他『スナメリの飼育と繁殖』（海洋と生物2008年2月号）、『スナメリ飼育の歴史』（海洋と生物）・『海洋と生物』（2014年2月，4月号）など多数雑誌に寄稿。

11_アーキテクト.indd　5　14.10.22　3:26:15 PM

〈隔月6回連載〉
必ず起きる
地震と災害に
備えよう
最終回
6

55年前の小学生の作文展示

川窪　巧｜一級建築士事務所　川窪設計工房

1959年（昭和34年）9月26日の伊勢湾台風から55年です。当時被災体験した名古屋市南区の白水小学校の児童がつづった作文が、8月27日から9月28日まで名古屋市博物館で「伊勢湾台風55年　白水小学校の記録から」として展示され、新聞やテレビでも「子は刻んだ　55年前の作文展示」と紹介されました。

作文が白水小学校の校長室に保管されていることを新聞が報道したことがきっかけで、名古屋市博物館に台風の体験作文記録「台風記」と当時6年生が共同で描いた絵画が共に保存されることになったのです。担当の瀬川貴文学芸員は「体験記録がこれほどまとまってあるのは貴重で、被災児童の心の持ちようを研究する資料になるかもしれない」と話をされていました。

55年前の自分の作文があった

当時、私は白水小学校6年生でしたが、作文を書いた記憶はありませんでした。熱田区旗屋小学校に仮入学したので、その間に作文を書いたのだろう、だから関係ないなと思っていました。前回、伊勢湾台風について執筆したので（本誌9月号「多くの犠牲者を出した『伊勢湾台風』」）JIA東海支部の事務局に寄って「ARCHITECT」9月号を少しいただき、帰りに博物館に寄りました。吉田初三郎の描いた大正・昭和のパノラマ大紀行を観るためでした。その際、伊勢湾台風の作文があるのか聞いてみました。名前を告げると「4階に上がってください」と言われ、私がかいた「作文」を見せていただきました。

2ページにも満たない短い作文でした。台風での堤防の破壊と貯木場から流れた流木をなぜ防げなかったのか。“なぜ、なぜ、なぜ”と悔しさがあふれた作文でした。公開の了承をしました。そして、「ARCHITECT」9月号をお渡しして帰りました。

名古屋テレビから取材の申し込み

名古屋市博物館で公開された作文を見たと名古屋テレビから取材の申し込みがありました。

9月24日、愛知県岡崎市の私の事務所での取材でした。事務所には模型とパネルが展示してあります。資料と、石垣堤防が壊れた絵画（本誌9月号の絵２参照）を使い説明しました。防災建築とは丈夫な地盤に強い構造の建物をつくることですが、浸水地域、液状化の危険、軟弱地盤などの対策が必要なところが多くなっています。対策を適正に行うことは言うまでもありません。また、風速40mを超える暴風はものすごく、飛んでくる瓦などは簡単に防火サイディグを突き抜けるでしょう。2階の開口部も飛来物の防御が必要でしょう。

小学校6年生の時から、その悔しさを“ずーっと”今まで貫いてきているのは、何か不思議な気がします。自分自身に“きっかけ“を与えてくれた作文だったと今では思います。

9月25日午後6時15分からの、メーテレ「UP！視点」で放映されました。

一気に水が上がってきた。

「30秒から1分ぐらいで一気に、ウ

写真1　堤防が破壊され、潮の干満が激しい決壊口：中日新聞社

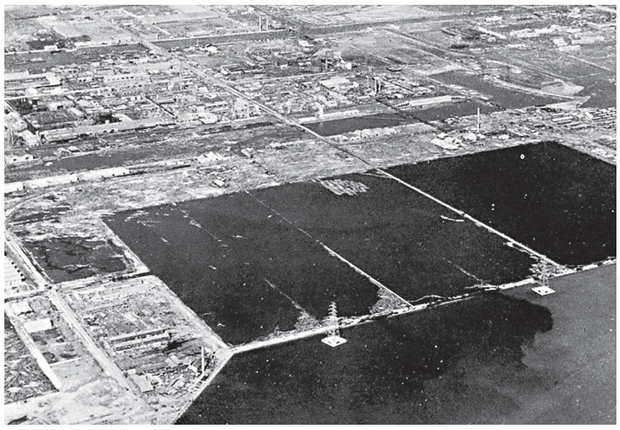


写真2　ラワン材があった貯木場、流出して空っぽである：中日新聞社

11_アーキテクト.indd　6　　14.10.22　3:26:16 PM

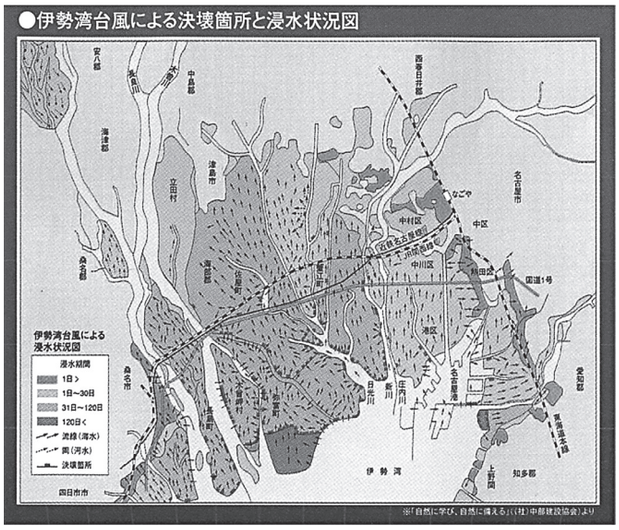


図1　伊勢湾台風による決壊箇所と浸水期間（浸水状況図：中部建設協会より）

図2　伊勢湾台風の帯水地域図。古墳時代の海岸線とほぼ一致する。
名古屋の浸水地域も古墳時代の海岸線まで浸水した共通点がある

ワーッと水が上がってきた」。体験者がよく言っている言葉です。避難の途中の人は足が立たなくなって流され亡くなったり、おんぶしていた赤ちゃんが浮き上がり、スポッと抜けたりして亡くした話を聞きました。それは高潮と高波が堤防を越え、一気に堤防を倒して白水小学区に流入したときです。まるで、津波です。それに貯木場の丸太流木が一緒に襲ってきたのです。

万里の長城が崩壊した

万里の長城と言われ誇っていた堤防は、伊勢湾台風で破壊されました。ここは阿久比川と半田港の間にあり、現在半田市役所、半田市民病院や消防などがある場所です。1695年（元禄8年）山方新田として干拓が始まり、1821年（文政4年）亀州新田、1855年（明治13年着手、15年完成）康衛新田が干拓されました。東洋紡績があり、その建物を中島飛行機半田製作所（富士重工）が軍需工場に転用して、中島艦上偵察機「彩雲」などを製造しました。部品から組み立て整備まで全部そろっていて、滑走路まで整備されました。乙川駅はこのときに、この工場のためにできた駅です。1944年（昭和19年）12月7日の東南海地震により、多くの学徒動員された女学生が亡くなったところでもあります。康衛新田の住宅は基礎を残して全滅です。

こんなことってあるの？という、思いがけない出来事がたくさんありました。本当にびっくりしました。予定していた戦争と地震については、またの機会に！　（了）

かわくぼ・たくみ｜JIA愛知会員。1947年生まれ。名城大学卒業後、設計事務所勤務を経て、1983年、愛知県岡崎市で川窪設計工房設立。県立半田工業高校非常勤講師

写真3　天白川に建てられていた送電線鉄塔を取り込んで、高潮堤防を築き貯木場を再開した（貯木場の丸太がたくさんある）

写真4　堤防決壊による全壊建物の基礎（半田市康衛町、現在は瑞穂町と町名を変えた）

11_アーキテクト.indd　7　14.10.22　3:26:18 PM

「木」を見つめ直す

8月22日（金）～24日（日）の3日間、静岡文化芸術大学（浜松市）でJIA静岡デザインフェアが開催されました。今回のフェアは“木”を見つめ直すことに焦点を絞ったものばかり。具体的には、「建物の低燃費と建築デザインを兼ね備えたパッシブハウスを建てましょう」と題しての温熱環境セミナー、「天竜産材を使った空間デザイン」と題したワークショップ、「庭と建築」について語られたデザイナー講演会、建築家による実作を紹介した建築作品展示の4本立てでの内容です。まず、3日間を通して開かれた建築作品展示についてご紹介いたしましょう。

「環境を読み解く」
— 建築家たちのこたえ —

展示は、10名のJIA正会員から26作品がパネルや模型を用いて出品されました。それらは戸建住宅から医療・福祉・教育施設に至るまで幅広く、来場者は時間をかけて鑑賞しているのが印象的でした。

中には「3日間の展示ではもったいないほど展示内容が素晴らしい」とか、「静岡県内にこのような建築家がいることを知ることができて良かった」などの感想が寄せられ、公益社団法人として必要とされるJIA静岡に一歩近づけたイベントだったように思います。

作品展示の様子

次回は12月を建築月間として、静岡市で建築フェア開催の準備を進めています。

村松　篤｜村松篤設計事務所

第1回JIA塾

「建物の低燃費と建築デザインを兼ね備えたパッシブハウスを建てましょう」

講師：
金井儀仁氏（グラウンド・ワークス㈱）／
大谷内貴史氏（㈱シーピーユー）

グラウンド・ワークス㈱　金井儀仁氏

㈱シーピーユー　大谷内貴史氏

22日15時50分からのセミナーの講師は、グラウンド・ワークス㈱の金井儀仁氏と、㈱シーピーユーの大谷内貴史氏です。

前半は金井氏による「住宅の省エネについて」。住宅の省エネ基準はこれまでもあったが、「義務」ではなくて、あくまでも「努力目標」。ようやく、住宅の省エネ基準の2020年義務化ということが出てきましたが、それでも日本の省エネ基準は先進諸国の基準と比べるとはるかに見劣りするレベル。車や家電で省エネ性能が重視されるのと同じように、住宅の省エネ性能を数値で示すのがこれからのスタンダードになるだろうといった内容でした。

後半は大谷内氏による「建もの燃費ナビ」という省エネ計算ソフトの紹介です。「住宅の省エネ化」といっても、設計した建物がどのくらいの省エネ性能なのかを計算するのは大変なことです。断熱材の厚さをどのくらいにして、サッシや窓ガラスはどれを選んだらよいのか…。ところが、「建もの燃費ナビ」を使えば、簡単な操作で正確な温熱シミュレーションが可能となり、建物の「燃費」が瞬時に計算できます（このソフト、私もユーザーですがかなりスゴイと思います）。その他、通風や採光のシミュレーションソフトの紹介もありました。これらのソフトを使えば、これまで「カン」だったところも自信を持って設計できるようになるかも！と思いました。

石橋　剛｜石橋修建築設計室

11_アーキテクト.indd　8　14.10.22　3:26:19 PM

ワークショップ

「天竜産材を使った空間デザイン」

23日10時30分から行われたワークショップのサブテーマは「小人の空間とヒトの空間、巨人の空間－木の空間とスケールのデザイン遊び」でした。天竜産のスギ材のピースを組み合わせて空間をつくり、そこにさまざまなスケールの人を置いてスケール感覚の違いを楽しむ試みでした。一般の方からJIA会員まで熱心に取り組み、それぞれの世界をつくり上げていました。

シンプルな天竜産材のピースは、協賛企業のご協力で、屋根胴縁として使われる素材を細かく切り分け、やすりをかけたもの。ほんのりとスギ特有の香りと色合いの違いが創作意欲を引き立てます。ピースは、幼児の積木玩具でも類似の大きさがあるものですが、これに高校生以上の参加者が取り組むことで、新たな可能性が広がりました。単純なピースが組み合わされていくことで、さまざまな木の空間が生み出され、各個人に、新たな気づきがあったようです。

ドーム、本棚…最初の発想は、あるスケールが想定されながら制作されたものでしたが、そこに大小の人型を置くことで、空間の読み替えが行われ、さらに空間の可能性が広がりました。かなり完成に近づいたところで崩れてしまう場合もありましたが、それが新たな発想を見出す機会となったりと、意外な発見もありました。制作している各自が、木の空間を見つめ直し、新たな境地に出会う契機となったようです。

上｜大人も真剣
下｜人型を置いてみる

亀井暁子｜静岡文化芸術大学

デザイナー講演会

「庭と建築」

講師：造園家 荻野寿也氏
（荻野寿也景観設計代表取締役）

23日14時より静岡文化芸術大学南棟280講義室にて、荻野寿也さんによる講演会が行われました。「成熟社会における住空間の新たな価値を見つけよう」をテーマに、会員のほか学生や建築・造園関係の多くの方々にお集まりいただきました。

建築家の前田圭介氏や伊礼智氏とのコラボレーションなどで日本中の現場で活躍されている荻野さんは大阪府出身。ゼネコンの現場監督を経て家業の建材会社に戻り、ゴルフ場のグリーン管理の仕事を手掛けたのがこの道に入るきっかけでした。

そこで作為的な石組みをつくる日本の造園屋と、さりげなくナチュラルなものを求める外国のランドスケープとの違いに直面し、その後自邸の庭を考える中で日本や英国という様式ではなく、生活と密着した里山のような緑を目指されるようになりました。殺風景な日本の住宅地にもう一度原風景を取り戻したい。木立の中に佇む建築、奥入瀬渓谷、鎮守の森の気持ち良さ。例え小さな家でも庭で豊かさを生み出したいと、狭くても諦めず、1本でも多く植える日々だそうです。

立面から造園を考え、街にも緑を提供し、照明の基本は月明かり。断面的な植栽配置やインナーガーデン、土壌改良や地下支柱へのこだわりなど技術的な話も満載でした。建築家には、地域の景観をつくるため、ハウスメーカーとの違いをカーポートや車寄せで出してほしいとのお願いも。

緑を上手に使いながら、共に美しい景観をつくっていきたいと思います。

上｜荻野寿也氏
右｜三井ガーデン京都

八木紀彰｜
八木紀彰建築設計事務所

11_アーキテクト.indd 9 14.10.22 3:26:20 PM

石川真司弁護士講演会「建築トラブル回避法」

9月16日（火）18時からJIA東海支部事務局で行われた石川真司弁護士の講演会「建築トラブル回避法」に出席しました。

石川先生は特に建築方面のエキスパートで、数多くの建物に関わる案件をこなされてきています。昨今は建築において施工上のことばかりでなく、設計や監理に関わるトラブルも増えてきているのではないでしょうか。私自身、設計に関わる者のひとりとして、これを機にさらに専門的な知識を高めたいと思い参加しました。会場はやはり設計関係者が主体だったでしょうか、知っている方も数多くおられ、和んだ雰囲気の中で話が始まりました。建築関係の講演会というとパワーポイントが普通に使われたりするものですが、石川先生の場合それは一切なし。何かそこに弁護士らしさを感じたのは私の思い込みでしょうか。受付で渡されたレジュメを基に話が進みました。

欠陥と日本の法規

欠陥住宅とは何か、というお題から始まりました。とっさに床が傾いてビー玉がコロコロ転がったり、扉が開かなかったりする画像が思い浮かびます。何をもって「欠陥」とするのか、誰がそれを判断するのかがポイントとなるようです。最高裁の話を基に、欠陥についてひも解いていただきましたが、感覚的な判断ではなく、あくまで法的に判断する時代となっていることを繰り返し強調されていました。

何が原因であるのかをチェックするのは当然のこととして、設計図書や契約図書、議事録などを基に現場と照らし合わせて、あくまでも法的に可なのか不可なのかの判断が行われるとのこと。私自身幸いにも法廷に立ったことはないのですが、先生の話しぶりからその厳格な風景が伝わってくるようでした。検査方法も進化しつつあり、逃げの効かない風景が歴然とあるかのように思えます。

怖いのは一部の欠陥をもって建物全体を判断されないかということです。監理業務は特別な場合を除き常駐ということはありません。つまりは自分が見ていないときも現場は進行していきます。コンクリートのかぶり厚さが、時として問題となり、そのことが質問として出ましたが、部分的な欠陥が見つかったとしてもそれが全体にまで及ぶことはまずないとのことでした。しかしながら何年かして新たな欠陥が見つかったらどうなるのか…。これについて20年という時効はあるようですが、まず自分たちに求められるのは細心の注意であるように思いました。

要求への対応

お施主さんからはいろいろなご要望が出てきます。それについて考え、かたちにしていくのが私たちの仕事です。でも時には少々無理な要望も出てきます。例えばロフトの天井を高くしてほしいとか、よくある話です。難しいなあと思ったのは、善意であっても無理な要求には答えてはならないというところでした。日本は法治国家ですし、法に従って物事を進めるのは当たり前のこと。

私も当然ながらそのように設計するわけですが、法規や条例がおかしいと思うことはよくあります。実質的でないとか、誰の役にも立ってないとか、法令や条文の活字を見てイライラするのは誰だって1度や2度ではないはずです。そこにお施主さんの意見が加わればなおのこと。でもだからといって一線を乗り越えてはダメなんですね。お客さんの意見を聞き、法規を乗り越え、なおかつ美しく仕上げることが私たちに課せられているんですけど、もう少し法規が実情に沿ってくれないかなと思います。このあたりは融通が効かないけど仕方ないことなのかな。先生の話を聞きながらどこか日本の先というものを考えたりしました。

ほかにもいろいろなお話があり、活発な質疑応答がありました。建築をめぐる状況は日々変動していきます。そのような状況を考えると、トラブルを回避するには横の連携が重要なのではないかなと思いました。目線を複数にすることで複雑な状況も少しは緩和できるのではないでしょうか。大変な状況は続きますが、情報交換を進めることで、どうにか難を防ぐことができるように思いました。

竹中アシュ｜
竹中設計事務所アシュ

石川真司弁護士

集まった参加者は熱心に話を聞いた

11_アーキテクト.indd 10　14.10.22 3:26:20 PM

第1回 「建築家と構造家のコラボレーション」

―構造計画が意匠にいかに生かされるか―

講師：渡辺誠一（椙山女学園大学名誉教授、JIA会員）

9月18日（木）に開催した。参加者は51名（JIA18名、士会11名、一般19名、学生3名）であった。2006年のリレー・トーク、2009年のリ・セミ1、2のセミナーが好評だったことから、シーズン2として改めて聴講の機会を設けることになった。講師の渡辺氏は、JIA会員・JSCA名誉会員でもあり、設計・教育・研究・実務審査に携わっておられるので、総合的な観点で構造を説明いただけるセミナーが実現できた。

まずは、渡辺氏が実際に訪れられた建築に構造的な視点での説明を加えながら、短い時間の中で数多くの建築を紹介していただいた（紙面の都合上、多くの建築名を略させていただきます）。

●国内で建築デザインと構造

骨組が意匠に表現された建物

代々木競技場・第一体育館／駒沢オリンピック記念体育館／東京ドーム／（略）／東京国際フォーラム／ドーム建築（略）

●海外で骨組がデザインに表現された建物

中国銀行香港支店／香港上海銀行／シドニーオペラハウス／（略）／ミネアポリス連邦準銀行／上海環球金融中心／フランス・ロワッシー空港鉄道駅

●世界のユニークなタワー

鉄塔のデザインは制震装置採用により応力変形を減らしペンシル型が増えた。

東京、名古屋、神戸ポート、京都、福岡・千葉、東山スカイ／ツインアーチ138／エッフェル塔／ワシントンメモリアル／（略）／東京スカイツリー／水戸芸術館

●有名建築家と構造家のコラボ例

①丹下健三と坪井善勝

②構造家：木村俊彦と多くの建築家

③磯崎新と川口衛

④伊東豊雄と佐々木睦朗

⑤妹島和世＋西沢立衛と佐々木睦朗

⑥林昌二と矢野克己

講師の渡辺誠一氏

会場の様子

⑦若林亮・右高博之と山脇克

以上、優れた構造家がかかわり、骨組みがデザインされた多くの事例を紹介していただいた。

確かに、ブレースをデザインの前面に、大架構をケーブルで、柱を1本とせず組柱としたり、カテナリー曲線による軸力のみとした細いメンバーによるデザインなど、優れた構造家とのコラボレーションがいかに大事か視覚的に理解できた。

多くの建築例を紹介した後、渡辺氏は、建築家のタイプは大きく2つに分けられるとされた。フォルム造形タイプは計画段階から構造家が参画し、カーテンウォールタイプは構造は従の関係となる。そして、構造家は技術・計算に裏打ちされた造形提案・構造設計の理念がある人で、コンピューター出力と計算基準のクリアは構造計算屋の仕事である。建築家は建築意匠（造形創造）・構造・設備を総括・統合し、構造家は構造技術と造形への挑戦により建築家の夢を実現する、と明言された。

最後に自身が携わった建築家とのコラボレーションの実例について紹介された。

中京テレビ塔：鋼管構造フランジ継手引張接合開発／中部電力浜岡原発事務所・送信タワー：同上／東海銀行健康保険組合星が丘体育館：プレートタイプドーム鉄骨造／岡崎市民会館屋根：鋼管立体トラス／幸田コミュニティ会館：ロングスパンへの挑戦／アサヒビール名古屋工場接待館：立体張弦梁の応用／ツインアーチ138：造形―波のイメージ／一宮地方卸売市場、中部電力一宮営業所等：プレストレスコンクリート架構／東海銀行一宮支店、御幸ビルディング：鋼－コンクリート合成梁／春日井商工館：格子梁、菱目梁の応用／伊勢商工会議所：ベアリングウォール+ボイドスラブ／アサヒビール茨城工場：鉄骨アーチ張弦梁、鋼管立体トラス、プレキャスト組立圧着PCラーメン／日進市スポーツセンター：球裁断鋼管立体トラス／東海団地倉庫西地区：RC造円筒シェル屋根構造／東晃工業レベラー工場：省鉄骨への挑戦－ガセットプレートの省略

多くの実例を見て、昔からの教えで、一生懸命やるべきことをやって苦労した人には「楽」という報いがあるが、「楽」の報いには、「苦」しかない、という言葉があるが、“やるべきこと”が何かを分かっていないと、良い報いは得られない。クライアントのニーズに応えながら、さまざまな取り組みを建築家とチャレンジし続けてこられた実例の紹介を受け、構造家とのコラボレーションの重要性と“やるべきこと”の見極めの重要性を実感した。

高嶋繁男｜黒川建築事務所

11_アーキテクト.indd　11　　14.10.22　3:26:21 PM

第２回「岐阜各務原キャンプ前プロジェクト」ワークショップ

ものづくりイベントと空き店舗活用を提案

6月の第1回開催に続き、第2回「岐阜各務原キャンプ前プロジェクト」ワークショップが9月8日（月）各務原市産業文化センターにて開催されました。

前回は座談会形式でプロジェクトメンバーの方々にまちづくりへの思い、プロジェクトの可能性についてさまざまな発言をして頂き、大変有意義な意見交換会となりました。その後、岐阜地域会の役員会でその内容を踏まえ、ワークショップの進め方を議論した結果、第2回目は岐阜地域会から具体的なプロジェクトを提案し、メンバーの方々から意見を頂きながらディスカッションするのはどうだろうかという方針になりました。

今回こちらから提案した二つのプロジェクトですが、一つは街の活性化を促すきっかけとなるイベントの開催、もう一つは対象エリアで増えつつある空き店舗活用についての提案です。

1）ものづくりイベント

前回の座談会では「この場所は自衛隊とのコラボレーションが可能ではないか、航空宇宙都市としての各務原市のスタンスを生かせる場所ではないだろうか」「1年に一度行われる航空祭の日、町に来た人々に魅力ある街だとアピールすることが活性化の波及に繋がるのではないか」という意見がありました。このような意見を念頭に置きながら、地域住民、市民の方々が愛着を持ち継続していけるような2種類のものづくりイベントを提案しました。

○物見台製作ワークショップ

このエリアにある大東公園は毎年、秋に開催される航空祭時、空を舞う航空機がよく見える場所ですが、現状より少し高台の場所があれば、より迫力のある航空機パフォーマンスを観覧することができます。そこで公園中央にワークショップ形式で木造の仮設物見台をつくろうというイベントです。メインは航空祭当日ですが、その日だけで終わるのではなく、基本デザイン→設計→製作→使用→撤去まで一連の流れをイベント化しています。

ものづくりイベントの計画地

空き店舗活用の候補の一つ

具体的な流れは、

①基本デザインを地域住民、市民から公募しコンテストを行う。プロジェクトメンバー、地域住民代表、市民代表が審査委員となり実施案を決定する。

②岐阜地域会で基本デザインを図面化、安全性などを考慮し実施図を作成する。

③実施図を基に縮小模型づくりのワークショップを開催する。制作した模型は航空祭当日まで市民の方々に見て頂けるよう公共施設などに展示し話題性をつくっていく。

④街の大工さん、専門業者等に協力してもらいながら物見台を制作していく。

⑤航空祭当日、物見台使用後、参加者全員で協力し解体、撤去、公園の清掃までを行う。

○こども屋台製作ワークショップ

同じ公園内で十数台が集まる屋台村を開きます。使用する屋台は物見台と同じく木造、一連の流れは物見台と同じですが、子どもたちが屋台をプロデュースし自らが店長となってもらいます。出品メニューについては街の飲食店の方々に協力して頂き、地域住民、飲食店経営者が一緒になってイベントをつくっていこうという提案です。

これらのものづくりイベントは「岐阜県No.1ものづくり都市」である各務原市の特色を地域住民、市民の方々に再認識して頂き街に対する誇りや愛着を一層持ってもらおうという意図も込められています。

2）空き店舗活用事業

このエリアでテナントを所有するオーナーから空き店舗の一つをまちづくり活性化のためにぜひ使ってほしいとの相談を受けています。

前回、メンバーの飲食店経営者から「このエリアは魅力的だが人出が少なくなっているため、継続してお店を経営していくことが難しい」との意見もありましたが、まずは定期的なイベント、会合などを行う場所として使っていこうという提案です。

具体的には上記の航空祭で行う「ものづくりイベント」のミーティングスペース。イベントに絡んで木育、食育などの勉強会の場、地域住民によるまちづくりを話し合う場など、多世代が自由に使える場所として考えています。

以上2つのプロジェクトを提案した結果、さまざまな意見、賛否両論ありましたが、今回頂いた意見を踏まえ、これら提案の実現性、その他可能性を持つ提案の模索など、岐阜地域会で十分に検討し、次回ワークショップに繋げていきたいと思っています。

寺下　浩｜
smilo architects unit

11_アーキテクト.indd　12　　14.10.22　3:26:21 PM

JIAと奈良の市町が災害時応援協定を締結

7月28日（月）奈良県香芝市の市役所にて、災害時応援協定が香芝市、広陵町とJIAの間で締結された。香芝市より吉田弘明市長、広陵町より山村吉由町長、JIAから芦原太郎会長、森田昌司奈良地域会長ほかが出席した。

協定内容は、大地震などの災害に備えたもので、①応急危険度判定士の参集、②被災建築物の建築相談、③被災建築物の被災認定調査、④防災・減災支援活動、となる。特に④が注目される内容で、平時より準備して減災を図る活動である。具体的には、子どもに向けた防災教育の支援、防災セミナー開催や啓発活動への支援、行政による防災計画への助言、事前復興計画への助言などを提案している。

香芝市、広陵町は、大阪近郊の住宅地として近年急激に人口が増加している。丘陵が広がり川が流れ、もとより自然が豊かであるが、古墳や仏閣が集まる歴史的にも由緒があるまちである。宅地開発が行われ激変するまちへの安全策や都市基盤の整備に防災の意識が培われているようである。特に広陵町は意識が高く、防災士の免許取得を行政が援助しており、地区ごとに自主防災組織があるようだ。

JIAとしては行政との間で協定を結ぶのは神奈川などで先例がある。そのときの基本柱は①～③であり、④は今回が初めてとなる。JIAでは2004年の新潟県中越地震をきっかけに災害対策委員会が設置された。この委員会は震度6弱以上の地震発生で起動する組織であったが、2011年に三重県紀宝町を中心に発生した紀伊半島大水害時に、地震以外の災害に初めて行動を起こした。当時委員会責任者であった森岡茂夫氏（現JIA和歌山）が、自身の郷里の隣町が紀宝町であり、その災害の深刻さを上程し芦原会長の英断を促した。その結果、奈良・三重・和歌山地域会に支援活動を要請した経緯がある。

この経験をもとに防災の重要性を説く森岡氏と奈良地域会長の森田昌司氏がタッグを組んだ。森田氏は地元住民や行政との間に太い信頼関係を築いており、災害時の支援だけではなく平常時の備えで2次被害を縮小しようという考え方が、行政とJIAとの間で共有できた。それが今回の締結に至った所以のようである。JIA三重は、紀宝町での支援活動、そして森岡氏に6月に講演に来ていただいた経緯があり、今回オブザーバー参加となった。

「JIAは活動主体が各地域会となり、支部・本部がそれをサポートする」との方針の中で、今回の協定はまさに地域会が頭に立った活動である。芦原会長より、「具体的に動き出します。これからが本番」との挨拶があったが、まだ先が良く見えないままでの船出となる。だが、森岡氏はわれわれに「災害に強いまちづくり」を支援しようと呼び掛けている。そこには人道的な意味と共に、まちづくりに対して責任を果たすべき建築家の社会的役割があるとの訴えがある。また、JIAが住民と行政のパイプ役となること、そして各組織との連携を取ることと共に、啓発や教育などの地道な事前活動が減災を実現していくのだと示してくれている。「1人の命でも救うことができれば意義がある」という森岡氏、森田氏が語る力強い想いが、モチベーションとなっていくだろう。

締結式の前後で、奈良地域会、和歌山地域会、兵庫地域会、三重地域会でミーティングを行った。奈良、和歌山は三重にとっては隣り合った県ながら、今までは交流もほとんどなかった。松本敏夫近畿支部長より「ネットワークを面的に広げて、立体的に構築しよう」との提案があった。今後は今回のような支部域を超えた交流も活発に行い、生きた情報の交換と技術的な互助ができる環境をつくりたいと思う。

奥野美樹｜奥野建築事務所

■ 協定締結式参加者（敬称略）

＜**行政**＞吉田弘明市長（香芝市）、山村吉由町長（広陵町）ほか6名
＜**JIA**＞芦原太郎（会長）、松本敏夫（副会長、近畿支部長）、森岡茂夫（本部災害対策委員会相談役、和歌山地域会災害対策委員長）、森田昌司（奈良地域会会長）、中尾克治（奈良地域会副会長）、勝村一郎（奈良地域会災害対策委員長）、浅野勝義（奈良地域会副会長）
オブザーバー：吉田文男（兵庫地域会、本部理事）、上嶋晴久（奈良地域会会計）、島桐子（和歌山地域会会長）、中西修一（三重地域会会長）、奥野美樹（三重地域会副会長）

左より森岡氏、松本氏、芦原氏、山村町長、吉田市長、森田氏、勝村氏、浅野氏、中尾氏、吉田氏

ランチミーティング。協定締結式参加の JIA メンバーで行った

11_アーキテクト.indd 13　14.10.22 3:26:21 PM

版画家 立原位貫（いぬき）氏「木版画 江戸から現代 その変遷を通して見えてくる日本の力」

JIA三重恒例の森羅万象匠塾が9月12日（金）三重県総合文化センターフレンテみえのセミナー室において開催された。冒頭、中西修一会長の挨拶で、公益的な活動の一環として森羅万象匠塾は地域会内の勉強会としてやってきたが、今回は会員外の一般の方にもPRして参加いただいたと報告があった。参加者は会員、法人協力会員21名、会員外20名であった。谷川精一研修委員長から講師の経歴紹介の後、立原さんの版画をつくる哲学の話が始まった。

伝統的な浮世絵という版画を40年やってきた中でおもしろい話ができるのではないかと、まず版画の歴史から話された。日本の伝統的な木版画は仏教を伝達するため、版に彫って大衆に広げるところから始まった。奈良時代終わりから平安にかけては謡曲、浄瑠璃を大衆に広め、室町以降は武家社会とかかわりながら江戸時代を迎える。江戸時代は町人の力が台頭し、歌舞伎などの遊びが出てくる。

その中で木版画は18世紀になって色付けされたことで飛躍的な発展を遂げる。それが浮世絵である。浮世絵は錦絵とも呼ばれて風俗画として広く庶民に親しまれ、大衆文化の中でその地位が確立された。しかし明治10年を境に木版画から石版画、銅版画へと変わっていき、明治20年頃には機械化され木版画はすたれてしまう。木版画の歴史は200年程度、現代まで百数十年、こうした歴史と会話しながら浮世絵の復刻を手掛けてきたという。

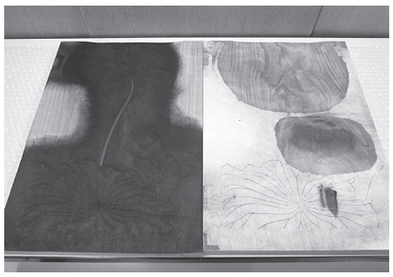
続いて製作技法の話に移る。ここでは素材へのこだわりが語られた。木版画は木に彫って、バレンで押して和紙に印刷をするが、版木は山桜の木で根っこから2mまでの板目を使う。山桜は木に粘りがありシャープな細い線が出るので良いという。一方、和紙は良質のものが減っている。紙の原料であるコウゾが酸性雨に対抗するため繊維が太くなった結果、紙質が硬くなり独特のやわらかな味がなくなったためだという。

立原位貫氏

続いて日本人の心の話。日本人のものをつくるときに持つ心は「見立てる」「人に添う」ことだという。それは例えば仏像や茶碗をそのものとして見るのではなく、自分自身として見ることである。友人の外国人からはもっと自分を主張した作品をつくれと言われるが、自己主張してしまうと、自分のあり様を忘れてしまう。「自分はここに置いておいて相手に添わせて、そして自分を見る」と自分が見えてくるものだという。そこから自分しかできないものが生まれるのだと語られた。

そして建築と美術について。日本の美術は建築から派生しているという。建築と美術は一体であり、床に書を掛けるのは自分の心を添わせて絵に見せた哲学であり、それが自分自身を“見立てる”ことである。また美術の寸法は建築によって決まる。利休のお茶は庶民のお茶であり、空間は狭いが、織部や遠州は武家のお茶で空間が広くなる。そうした建築のスケールで茶碗などの道具が決まる。これも美術が建築に「添う」ということだろう。

最後に、版画をつくるときの心構えを語られた。版画をつくるときに、ものと自分との間で木や紙に問うて、一人の人間として物事とどうかかわっていくか、一人の作り手として何を中心に据えるか、何かに「添わせて」そこから感じるものを自分の中に取り込む。江戸で滅んだ版画を復元するために、当時の色や表現を徹底的に調べ、今に蘇らせた。版画師として浮世絵の材料である和紙や絵具、版木などできるだけ当時と同じものを追い求め、絵、彫師、刷り師すべて一人でやる。その作品を触って紙の質感や木版画の良さを感じてほしいと締めくくられた。



上｜山桜の版木　下｜会場の様子

話を聞いて、私のもののつくり方も一度考えなければと強く思った。歴史、素材、日本人の心、そして建築と美術。すべてが私のものづくりと大きくかかわってくる。立原氏のものづくりの考え方は難しく抽象的だが心に訴えるものがあった。頭の中が整理できず悶々とするが心地よい疲れを感じた。作品の前でも解説してくださり、版木、刷られた和紙なども手に触れてみることができ、本物の木版画の世界に引き込まれた。

森本昭博｜森本建築事務所

11_アーキテクト.indd 14　14.10.22 3:26:23 PM

JIA 東海支部講習会

日時：2014年9月13日（土）13：00～17：30
会場：昭和ビル9階会議室（名古屋市）

辻充孝氏

瀬口哲夫氏

芦原太郎氏

第1部
「パッシブデザインを活かしたエネルギー設計と実測」
辻充孝氏（岐阜県立森林アカデミー 准教授）

すぐれた設計への「切り口」は建築家が常に追い求めるものだが、今回の講習では、環境的視点から、新たに分かりやすく、具体的な効果が得られる手法を提示していただいた。

その適用範囲は立地の気候条件の読み方、地域環境の読み方、配置計画から始まり、躯体・環境の基本性能の設定、環境評価など、建築計画全体を網羅していた。また、その一つひとつの要素、例えば気候条件の読み方であれば、HPからの情報収集方法、省エネ性能判定プログラムの使い方など、すぐにでも役立て、設計内容の環境的評価を自分でできるような、実践的で丁寧な説明が続き、聴講者の大きな満足感が得られる内容であった。

ご自身によるパッシブ住宅作品の紹介は、環境的設計が創造的設計につながること、その数理的評価が施主にとっての確実な利益につながることを具体的に説明するものとなっていた。

また、辻准教授の思いは参加者への2つの宿題「1.自分のパッシブ住宅を言葉で表現する」「2.省エネプログラムの計算結果のPDF」の提示により、環境アプローチへの誘いを行い、参加者との協調を感じさせるものになった。

環境技術の紹介にとどまらず、実際にエネルギー設計と検証を設計に取り込むことで、設計の視野を広げることとなることが伝わる講習であった。

青山仁志｜青山設計

第2部
「英国の建築家になるための実務経験について」
瀬口哲夫氏（名古屋市立大学 名誉教授）

第2部のテーマは「英国の建築家になるための実務経験について」、まさに建築家職能に係る資格制度に直結する視点である。

テキストは先生の2011年度の研究報告書「英国の建築家資格における実務経験とパート3の試験制度について」、周到な現地調査に基づく懇切の実践的報告から成る。とはいえ、約70分の講演は決して剛速球勝負ではなく、先生独得の軽妙な語りかけ口調で、痛快で示唆に富んだ聴講のひとときであった。

冒頭に「実務経験とパート3試験」の要約画面にて、英国の建築家資格制度では5年間の建築教育と2年間の実務経験が必要でありその後にパート3試験（最終試験）があること、2年間の実務経験のうち後半1年は建築事務所での経験が必要で、これが最終試験対象になることが示された。この過程で建築事務所の役割が特に大きく、「メンター」と呼ばれる直接指導者が重大な責任を付与されるという。

全体を通して、英国での建築家資格が極めて厳正な実務経験や全人的審査の上に構築されていることの驚愕的再認識の一方で、尊厳を守る事細かなルール化はとりもなおさず不心得者の多さの裏返しとのアイロニーも心に残る。姉歯事件で大失墜し再々の制度化模索に揺れる日本の「建築士」、さらに私たちの「建築家」の現況と今後は果たして…。「建築家」先進国の実践例の仔細は大いに興味深い。

鈴木利明｜前・日本設計

第3部
「JIAと建築家資格制度のこれから」
芦原太郎氏（JIA会長）

芦原会長はブルネレスキから始まる「建築家」の歴史から講演をスタート。1914年、全国建築士会が「建築家」の理念を提唱して以来、「建築家」についての社会的認知が一向に浸透しない日本の現状がある。会長は「公共の価値ある建築」を語ることによって「それを創る建築家」を社会にアピールしていこうという考えを示した。

建築家資格制度については、現行の登録建築家制度が行き詰まりの状況にあるという認識を示し、それを打開するため、従来の「社会制度経由ルート」に加えて、新たにJIA正会員全員が登録建築家となる「JIA正会員ルート」との両面作戦で行くことを説明。

その方策としてまずJIA正会員資格をUIA規準に適合するよう改訂する。その上でJIA正会員全員を登録建築家に認定して「JIAアーキテクト」という称号を与え、UIA規準の建築家であると世界に胸を張って言えるようにするというもの。そのためのJIA会費の改訂、CPD制度の改革などについても論及。会員の合意が得られれば来年の総会で決定したいという意向を表明した。

講演後の質疑応答では、現行の登録建築家規則細則も改訂すべき、JIA正会員に一級建築士定期講習を義務付けるべき、JIA正会員にCPDを義務付ければ会員数が減る、などの質問意見が続いた。これらに答えて会長は、会と制度の質を確保し理念を貫くために歯を食いしばって頑張らなければならないという熱い思いを語り、議論は二次会へと続いた。

植野　收｜石本建築事務所

11_アーキテクト.indd 15　14.10.22 3:26:24 PM

私の意見

コンペについて

若者に公共建築設計のチャンスを

今、世界中で話題になっているコンペがある。グッゲンハイムのヘルシンキ美術館のコンペである。このコンペは建築家の資格さえあれば、誰でも応募可能である。年齢、国籍、実績などは一切応募資格の要件では問われていない。僕は、大学の研究室の学生たちと一緒に毎年いくつかの国際コンペに応募しているが、ほとんど資格要件で制限を受けたことはない。世界中から建築に夢を持つ人たちが、キャリアには一切関係なく匿名の条件でコンペに応募してくるわけである。今、話題の新国立競技場のコンペでは、応募資格にプリツカー賞やRIBAのゴールドメダルの受賞者などの条件が付けられていたことが記憶に新しい。日本のアトリエ事務所で応募可能だったのは10者もいなかったのではないだろうか。このコンペ要綱を読んだときに感じた虚脱感と、思わずもらしてしまった失笑は今でも鮮明に覚えている。

■

一般的に、国内で行われているプロポーザルのほとんどは何らかの形で参加要件が定められている。その中でも最も厳しいのが、同種・類似業務の実績が問われる場合である。例えば、ある庁舎のプロポーザルでは「平成○年以降、国、都道府県および市町村が発注した6000㎡以上の庁舎新築設計に関する業務の実績を有すること」という条件が付けられている。この条件をクリアして応募できる設計事務所は一体どれだけの数があるだろうか。現在、50歳代半ばである僕たち世代の設計者でも応募できる設計者の数は相当に絞られるだろう。ちなみに僕たちの事務所は応募できない。ましてや30代から40代の若い建築家たちには全くと言っていいほどチャンスはない。

僕が今危惧しているのは、若い世代の建築家たちが希望を失っていくことだ。一般的に、若い建築家は住宅や小規模な施設の設計からスタートし、徐々に仕事の規模や幅を広げながらキャリアを積み重ねていく。必ずしも大規模な建築を設計することだけが目的ではないにしろ、いつかは自分も巨匠たちのように腕を振るえる日が来ることを夢見ない者はいないだろう。しかし、現在、公共建築ではその道はほとんど閉ざされてしまっている。このような状況が長く続くとしたら、建築設計業界はどんどんと痩せ細っていくに違いない。

近年、多くの大学で意匠系の研究室を志望する学生の数が減っていると聞く。また、意匠系の研究室で大学院まで進学しても、アトリエ系設計事務所に行って将来は独立しようとする学生の数は激減しているとも聞いている。いわゆるアトリエ系事務所が労働時間の長さや給与・福利厚生などの待遇面の問題から敬遠されるというのも大きな理由であろうが、キャリアをステップアップしていくイメージが持てないというのも一つの原因になっているのではないかと思っている。

意欲的な若手や学生たちは、建築設計という仕事で生き残っていくためにはタフでなければならないことは十分に自覚している。コンペになれば最後に勝つのは1人であることも分かっていながら果敢に挑戦する覚悟もある。しかし、挑戦するチャンスさえ与えられないとしたら、何に夢を抱いてこの世界に入って来るだろう。意欲的な若い世代が、この仕事に夢を持たなくなったら、建築設計業界は本当に貧弱になっていくに違いない。

■

これは単にアトリエ系事務所だけの問題ではない。設計業界は、さまざまな組織形態（組織事務所、ゼネコン設計部、ハウスメーカーや工務店、アトリエ事務所など）があって多様性が確保されている。もし、組織設計事務所しか公共建築のプロポーザルに参加できなくなったら、日本の公共建築の多様性や可能性は著しく失われることになるだろう。建築業界に限らず、若者が夢を持てなくなったら未来はない。これは社会的な損失だと言ってよい。

コンペやプロポーザルのやり方を変えていく必要があると思う。もちろん、建築の設計において経験が占めるウェイトが大きいのは事実である。発注者としては、安全を確保するために実績のある設計業者を選びたいという気持ちも理解はできる。

それでは、最初にあげた国際コンペの場合はどうなっているのか。ほとんどの応募要項に記されているのは、最優秀となった建築家が外国人であった場合は必ず国内の建築事務所と組むことが義務付けられている。このやり方は日本国内のプロポーザルでも問題なく適用できる。実際にも、案を全国から公募しつつ地元の設計事務所を実績で選出して、最終結果決定後にJVを義務付ける事例はある。この方法を援用すれば制度的には可能なはずだ。別の方法として、若手のデザイン

11_アーキテクト.indd 16 14.10.22 3:26:24 PM

アーキテクトと経験値の高い事務所とのJVでの応募を定めた事例もある。ただし残念ながら、このような事例は極めて数が少ない。

コンペやプロポーザルは誰にでもオープンであることが基本だとは思うが、逆の制限があってもよいはずだ。例えば、小規模な物件の場合には40歳以上の建築家は参加できないなどの制限だ。年齢や実績によって何段階かの基準を設け、基準を満たせばステップアップが可能となるようなシステムがあれば、若い建築家には非常にはっきりした目標とキャリアアップのルートが見えてくることになる。ちなみに施工については、このようなランク分けが機能しており、上位ランクの施工者は下位ランクの小規模物件には入札できないようになっている。役所内部のルールや法規のことはよく分からないけれど、設計のプロポーザルに援用する可能性もあるのではないか。

公共の役割は、適切に税金を使って一定以上のクオリティを確保したものを建設することにあるのは事実である。しかし、現在の状況は、失敗はないけれど往々にして可もなく不可もない凡庸な建築を生みだし続けているように見えてならない。税金の使い道として、後の世代に本当の財産となる建築を残すことや若い世代を育てていくことも重要だと考える。むしろ、そのような大局的な価値観を持つことが、目先の利益追求を第一義としなくてよい公共の役割なのではなかろうか。

伊藤恭行｜
CAn・名古屋市立大学

Bulletin Board

2次審査は11月22日（土）

第31回 JIA 東海支部設計競技

名古屋大学 ES 総合館にて

JIA東海支部の主催する「建築設計競技」は、今年で31回を数えます。10月11日（土）に第1次審査を終え（結果は「ARCHITECT」12月号掲載）、11月22日（土）に第2次審査が行われます。

●審査方法

学生の部、一般の部において入賞者7名（金賞候補1名、銀賞候補2名、特別賞候補1名、銅賞3名）が選出され、それぞれの部各4名（金賞候補1名、銀賞候補2名、特別賞候補1名）が2次公開審査会に進み、銅賞入賞者は表彰式への参加となります。2次公開審査会では発表者の持ち時間は各5分とし質疑を各10分とします。プレゼンはパワーポイントで行うこととします。

●「2次公開審査会・表彰式・作品展示・記念講演会」のスケジュール

11月22日（土）名古屋大学ES総合館にて

作品展示	12:00 ～17:30
学生の部公開審査	12:30 ～13:40
一般の部公開審査	13:50 ～15:00
銅賞作品講評	15:15 ～15:45
表彰式	15:45 ～16:15
記念講演会	16:30 ～17:30

（講師：島田陽氏、定員300名、先着順）

●審査員（順不同・敬称略　○審査委員長 ◎ゲスト審査員）

◎島田陽（タトアーキテクツ／島田陽建築設計事務所）、○道家洋（道家洋建築設計事務所／ローテクス）、川本敦史（株式会社エムエースタイル建築計画）、川本まゆみ（同）、出口基樹（日新設計株式会社）、寺下浩（スマイロ・アーキテクツ・ユニット）、牧ヒデアキ（makira DESIGN）

●表彰

＜学生の部＞＜一般の部＞とも、金賞1点（賞状、賞金10万円、記念品）、銀賞2点（賞状、記念品）、特別賞1点（賞状、記念品）、銅賞3点（賞状、記念品）

●問合せ

JIA東海支部内設計競技事務局（〒460-0008　名古屋市中区栄4-3-26　昭和ビル5階　TEL：052-263-4636　FAX：052-251-8495）

11_アーキテクト.indd 17　14.10.22 3:26:24 PM

遠方よりの派遣職員と模索する「魅力的な災害公営住宅とは何か」

JIA 宮城復興支援委員会 委員長　都市建築設計集団／UAPP　手島 浩之

さて、皆さんは行政派遣職員をご存知でしょうか。派遣職員とは、震災後、膨大な復興事業の進捗のために、被災自治体に派遣された全国の自治体職員のことです。

岩沼市玉浦西地区の防災集団移転団地は、住民コミュニティを中心に造成計画をまとめ、しかもスピードも速いことで震災復興のトップランナーとして知られている。その木造戸建てタイプの災害公営住宅を宮城県が整備することになり、設計者として私を含めた4者がプロポーザルにより選定された。

打ち合わせに出てみると、宮城県側の担当職員はほとんどが他県からの派遣職員である。彼らは各県を代表して来ていることもあって、びっくりするほど優秀で、情熱もある。何度かやり取りをするうちに、克服するべき課題はかなり整理できた。厳しい建設コストをどうクリアするか、高齢者の見守り空間をどう醸成するか、均質になりがちな外観をどうするか、出口戦略・将来計画は、など。

ひとつひとつ克服してゆくと、越え難い壁が見えてくる。例えば、公平性である。ここで言う公平性とは、ひとつには、公営住宅の間での公平性であり、各住戸の間で、露骨な不公平があってはならない。しかし平等性を突き詰めれば同じ住戸が同じ方向を向いて無味乾燥に並んでしまう。これについては、担当派遣職員と周辺に与える景観をどう考えるかを議論し、良い方向に落ち着いた。

加えてもうひとつ、自力再建住宅と災害公営住宅の間での公平性をどう考えるか。「今回の被災地のような地方では、公の助けにすがる自分を潔しとしない意見が根強く、なけなしのお金でプライドに掛けて自力で立ち上がろうとするお年寄りがたくさんいる。将来復興が成し遂げられたとき、自力再建が難しい人の最後のセイフティネットであるはずの災害公営住宅のほうが、自力再建住宅より立派であった場合、地域社会は大きく混乱するのではないか。魅力的なものをつくりたい気持ちは分かるが、同時にそれが地域に引き起こす混乱についても直視してほしい」。

震災前であればそんな指摘には、大して気持ちを揺さぶられなかっただろう。しかし震災を経てみるとこうした矛盾は、われわれ建築家の無知による許しがたい暴力のように思えてくる。しかし設計者としては、どうせつくるのであれば良いものをつくりたい。わざわざ税金を投入して良くないものをつくるのは、社会のためにも良いはずがない。しかし、地域社会で起こるであろう混乱をつぶさに見ていくと、派遣職員の指摘はもっともである。

住民同意をどう考えるかも課題となるが、彼らは「入居希望者の意見を取り入れて設計するつもりはない」という。「災害公営住宅は公共物であり、個人住宅ではない。ここで入居希望者の意見を取り入れると、次に入居者が入れ替わるときにもそうせざるを得なくなる」。しかし、そうであれば、行政と設計者だけですべてを決めることになる。それが公共物の在り方として正しいのか、とこちらからも反論する。それには直接答えず、「入居者の個人的嗜好を取り入れて設計してしまえば、自力再建者たちはどう思うだろうか。地域の中での不公平感はさらに膨らんでしまう」。言われてみればその通りである。

こうして、災害公営住宅は魅力的であることを禁じられ、主体が誰であるかも見失い、意味もなく地味に成り下がって設計されるか、それとも、役所の言う公平性を無視して魅力的につくられるかどちらかなのである。

そうした課題と矛盾に悩みながら、別の市町での災害公営住宅の計画にも取り組んでいる。そこでは、造成団地の計画段階で予期せぬ計画変更があり、行き所を失ってしまった災害公営住宅を、自力再建住宅地の中に受け入れるという決断を行った。自分たちの造成団地の完成が1年も遅れることを承知で、地域のお年寄りたちを受け入れることになった自力再建者たちは、災害公営住宅をも含めたまちづくりを「自分たちに決めさせてほしい」という。そのかわり、維持管理も公営住宅の人たちと一緒に自分たちでやるというのだ。そうして、せっかくこの地域にできる災害公営住宅を使って、「安全に行き来できる緑道を整備し、植栽を整備し魅力的なまちにしたい」という。「自分たちは何とか自力再建をするが、被災して何もかも失い、街並の整備までやる余力がない、そのために魅力的な災害公営住宅をどう計画するか、自分たちで考えたい」。

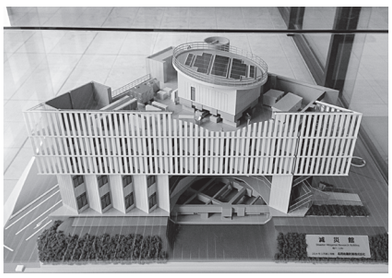
この地域の災害復興住宅の計画成立についても、他県からの派遣職員が大きくかかわっている。私たちは、こうした幾人かの派遣職員たちとの議論を通して、災害公営住宅が被災地で魅力的に存在できる道筋を模索している。こうした派遣職員には、東海地方の行政職員が多いことを皆さんには知っておいてもらいたい。

造成団地の外部空間の構成イメージ図（画：北上復興応援隊　遠藤博明）

11_アーキテクト.indd 18　14.10.22 3:26:25 PM

名古屋大学減災連携研究センター 講演会・減災館レポート

ワーク○キューブ　吉元　学



名古屋大学減災館の模型です。三角形の外観が分かります

「ARCHITECT」に連載を頂いている名古屋大学減災連携研究センターに、7月19日講演会「迫りくる南海トラフ巨大地震を克服する」を聞きに行くと同時に、減災館を見学しました。東山キャンパス唯一の免震構造の建物で、地震時には最大で90cm動くそうです。講演会は鷺谷威氏「南海トラフ巨大地震を知る―基礎から最近の科学的知見まで」、武村雅之氏「歴史に学ぶ防災論―関東地震と東南海地震」、福和伸夫氏「減災館を利用し南海トラフ地震の減災対策を進める」の3部構成です。

鷺谷氏から①日本では地震と無関係で暮らすことはできない、②地震の将来予測は今の科学では困難である（やっぱり無理なんですね）、③過去に起きたことや自分の今置かれている状況、今後起きるかもしれないことを理解し、自分の頭で考えて行動しなければいけないとのお話。また、武村氏からは①「安心・安全」という言葉の使い方が気になる、安全は「心配」することによって担保される、②科学には限界がある、③科学教育がうまくいっていない、④「便利」は人間に幸福をもたらしてくれるのか？との問いかけ。福和氏のお話は以前にも聞いたことがあるのですが「福和節」とでも言うべき名調子で、テンポよく語られました。名古屋人のプライドをくすぐりながら東京、大阪と比較し、防災の視点からナゴヤの街を語られます。①科学技術を安全のために使うのか、それともコストのために使うのか問われている、②地名にはメッセージがある「氵」のついた地名は要注意！　懇親会では岡崎の食品メーカーの方とお話ができました。「工場のあるところは砂地で地盤がよろしくない、しかし地名がブランド名になっているので移転はできない」。一筋縄では行かない問題です。③建築基準法は静的な力で検討しており万全なものではない。

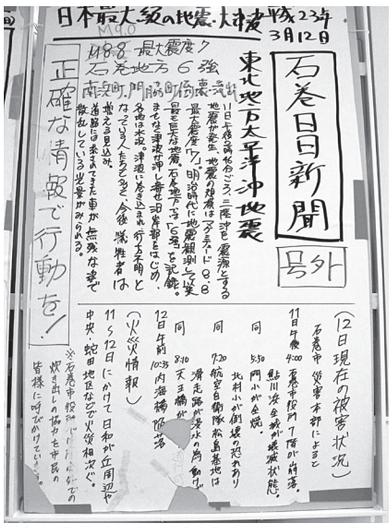
近代科学の限界

近代科学には限界があることを研究者の方は感じているのではないかと思いました。科学の限界というより細分化された研究がちゃんと伝わって社会のためになっているのか？という疑問です。そのために研究者から直接子どもたちにメッセージが届くようになっているのはとても良いことだと思いました。細分化の弊害を除くべく「減災」をキーワードにいろいろな分野の研究者が集まって、名古屋大学減災連携研究センターが設立されたのでしょう。研究者だけでなく建築家や芸術家や音楽家などもっと多様な人々が集まったら分断された科学の可能性を広げることができそうです。研究者の考えを分かりやすく一般の方々に届けたり、研究者を繋ぐのは建築家の可能性です。

福和氏に「建築設計者よ！　全面ガラスはやめなさい！　壁にしなさい！」とキツく言われました。

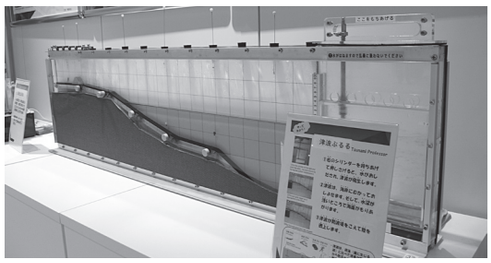
東海地区の連携の必要性

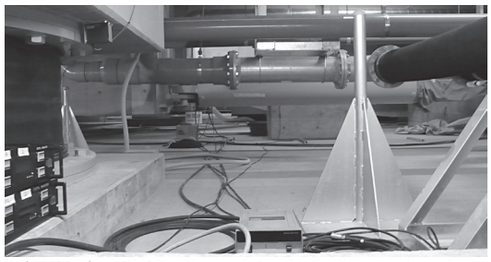
大地震の被害予想の地図を見ると、静岡・三重と愛知・岐阜では被害の違いがあります。台風の災害になればまた違う地図になります。これは東海地区が連携して対策しないといけないということではないでしょうか？　早期の東海支部での災害対策委員会の設置を望みます。



石巻日日新聞、本物です。震災当時の状況が生々しく伝わってきます

名古屋市の今の地図と昔の地図を比較できます





上｜津波やプレート型地震、液状化などの仕組が子どもにも分かりやすく説明してあります　下｜建物全部を約 10cm 引っ張って震度3の揺れを体験

11_アーキテクト.indd 19　14.10.22 3:26:27 PM

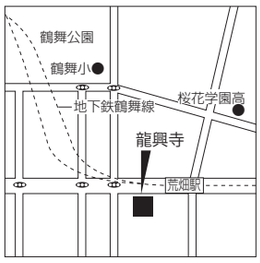
保存情報　第156回　JIA愛知保存研究会

データ発掘（お気に入りの歴史的環境調査）　瑞雲山龍興寺本堂

全景（北西面）

本堂小屋組

アンブレラ型制震装置



■発掘者コメント

龍興寺は、天文8（1339）年、この地の豪族、御器所城主の佐久間盛次が建立したと伝えられるが、戦災ですべて焼失してしまった。

昭和53（1978）年、実業家藤山雷太旧邸の日本家部分（書院と楼閣）を移築して本堂とした。この建物は昭和54年に愛知県指定有形文化財に指定され、現在は客殿として使われている（建物の詳細は保存情報第16回『龍興寺本堂』で報告されている）。現在の本堂は、愛知県東浦町の曹洞宗宇宙山乾坤院（けんこんいん）の庫裏を解体移築したもので、平成14（2002）年に完成した。

乾坤院は緒川城主水野氏の菩提寺である。徳川家康の生母、於大の方は四代水野忠政の娘であり、同寺で供養されている。この庫裏は元禄12（1699）年に建てられたとされ、龍興寺住職渡辺英信氏によれば棟札が存在していたとのことである。

移築された建家は入母屋造り平屋建て、間口11.7m、奥行17.2m、高さ11.8m。建立当初の軸組と小屋組の外周部に集成材による柱、梁、登り梁で構成した覆い堂を設け、これを制震構造とすることにより当初の柱や小屋組をそのまま保存する手法がとられている。覆い堂の軸部にはアンブレラダンパーを装着し、小屋組には弾塑性ダンパー付の張弦を装着した制震構造を採用している。この制震装置は日本大学石丸研究室で開発されたもので、古い建物の修復およびリユース、特に社寺建築の制震改修のために考案されたシステムである。

境内には、武田五一設計の旧芝川又右衛門邸寿宝堂も移築されているほか、「如庵」を模した茶室も。また、客殿には百済観音の半身像（摸刻像）が安置され、見学に訪れる人も多い。

所 在 地：名古屋市昭和区御器所3-1-29
アクセス：地下鉄鶴舞線「荒畑」駅下車　4番出口より西へ徒歩100m

澤村喜久夫｜
伊藤建築設計事務所

データ発掘（お気に入りの歴史的環境調査）　斉年寺

総門。巴瓦は佐治家の家紋「日の丸扇」

近く解体修理の行われる予定の山門

山門の詳細

■発掘者のコメント

大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」ゆかりの斉年寺は、尾張三十三観音第9番札所で、大野城主佐治家の菩提寺。享禄4（1531）年、現常滑市青海町山上の城内に建設され、天正15（1587）年に城とともに亡び、翌年現在地に再建された。

斉年寺を知ったのは、雪舟が涙で鼠の絵を描いて和尚さんを感心させたエピソードを伝える岡山県総社市の宝福禅寺の住職から、雪舟が描いた国宝「達磨大師二祖慧可断臂図」がある斉年寺を訪れてはと言われたことによる。この水墨画は、雪舟77歳、明応5（1496）年の作。縦183.8㎝、横112.8㎝、紙本墨画淡彩の一幅。平成16（2004）年国宝に指定され、現在、京都国立博物館に寄託されているが、立派な模写をいつでも本堂で拝観できる。

境内の建物のうち、当時の総門・山門はともに文久3（1863）年の火災でも焼け残った。総門は三間薬医門本瓦葺。平成14（2002）年に修復された。山門は一間一戸楼門、入母屋造り本瓦葺。下層は屋根を持たず、上層の周りには、縁、高覧をめぐらす。楼上には十六羅漢が安置されている（詳細は参考資料①参照）。境内には袴腰鐘楼、観音堂、経蔵、庫裡、不動堂、庚申堂のほか、持国天、広目天、増長天、多聞天に擬して置かれた4体の自然石が目を惹く。

運良く、ご住職からいろいろなお話を伺うことができた。平成43（2031）年には開創500年を機に、山門の解体修復工事を始めるとのこと。解体による新たな発見が期待される。

毎夕5時の鐘の音を合図に街の人々は夕方の支度に入るとか。次に訪れたときには、その鐘の音とともに暖簾をくぐりたいものである。

所 在 地：愛知県常滑市大野町9-139
交　　通：名鉄常滑線　大野町より徒歩10分
参考資料：①常滑市誌［第3］文化財編、常滑市、1983
②知多半島の歴史と現在 No. 13、日本福祉大学知多半島総合研究所、校倉書房、2005
③東海の古寺と仏像100選、渡辺辰典・白井伸昂、風媒社、1997

藤田淑子｜
元名古屋文化短期大学教授

11_アーキテクト.indd　20　14.10.22　3:26:29 PM

寄付金・契約約款などについて審議

本部理事・東海支部長　石田　壽

第221回理事会は、8月21日、理事23名（1名欠席）、監事2名、事務局3名の出席と、天野（旧四会）連合協定工事請負契約約款委員会委員、岡部災害対策委員会委員の2名がオブザーバー参加し、建築家会館1階大ホールにて開催された。芦原会長より、議事をスムーズに進行し16時30分には終了したい旨（後のホール使用の予定あり）説明があったものの、寄付金・契約約款などの審議にて時間がかかってしまった。

【審議事項】

1.入退会承認の件（筒井専務理事、浅尾事務局次長）

新規入会希望:正会員5名、準会員:専門1名、ジュニア6名、学生9名、協力会員：個人3名、法人12名　会員種別変更：正会員→シニア8名、正会員→専門4名、正会員→個人協力4名、退会希望:正会員22名（退職7、一身上6、体調3、その他6）、ジュニア1名、法人協力3名

準会員の入会により会員数は増えているものの正会員の退会が多く、正会員の増強が必要。　承認

2.①「フェローシップ委員会」②「建築家資格制度委員会」③「JIA環境会議」委員等の異動承認の件（筒井専務理事）

①：新委員－青木恵美子（関東甲信越）、谷村茂（東海）、解職－久保田英之（東海）　②：新委員長－大澤秀雄（関東甲信越）、解職－河野進（関東甲信越）　大澤氏は職能資格制度委員会委員長を兼任、河野氏は委員として活動。　③：委員就任の承認－委員の数（少し多いのでは）、財政的に厳しく、運営方法を考える必要がある。　承認

3.「JIA建築相談会議」設置及び議長承認の件（筒井専務理事）

議長：川津悠嗣（九州支部建築相談委員会委員長）　幹事支部：九州支部　承認

4.寄付金等取扱規程の件（上浪総務委員会委員長）

法人の寄付の場合は損金算入限度額が拡充、個人寄付の場合は所得控除などの税制優遇が受けられることで、JIAが受ける寄付金に関し必要な事項を定める。事業への協賛金は、1事業年度に限るもので協賛企業の広告となり、寄付金には当たらない（寄付金は年度にこだわらない）。　承認

5.小規模建築物用の四会連合協定建築設計・監理業務委託契約書類について（森副会長、天野委員）

内容の簡素化を図る（既存30条を18条に簡素化）。四会で承認後、国交省と協議（省令・政令との照合）の予定。今回は契約約款の審議。

承認

6.2014年度JIA事業活動助成要領（案）について（赤羽公益事業委員会委員長）

対象事業は、公益目的事業（定款第4条1,3,6,7）とし、年度ごとに設定する重点分野の事業に配分する。2014年度給付予算総額は350万円とし、助成単位の下限額は事業ごとに30万円とする（小口対応可）。申請締切日について、来年度以降は6月とあるが新年度慌しいので7月にとの意見が出た。同一事業（事業種）に対する助成は単年度限定とし、継続給付は原則行わないとのこと。　承認

【報告事項】

1.新国立競技場及び東京都による五輪関連施設整備に関するJIAの対応について（芦原会長・上浪副会長）

建築関連5団体からの質問書及びJSCの回答書について説明と状況報告があった。JIAは新国立競技場建設に賛成・反対の立場ではなく、正確な情報を分かりやすく社会に公開し、専門家集団として検証・提案をし、市民が納得できる形で建設が進むよう支援していく。ただし、関連施設のデザインビルドでの建設については見直しを要請していく。

2.資格制度の見直し方針とスケジュールについて（大澤職能資格制度委員会委員長）

説明後、時間の関係で質疑は取りやめ、岡山大会にて議論する。正会員=登録建築家（JIAアーキテクト）であれば、登録更新時に単位取得できない場合は正会員でなくなる。救済方法は検討中。

3.「国連防災会議」について（岡部災害対策委員会委員）

国連主催の会議で、第1、2回共日本で開催、第3回会議は仙台で予定。世界会議と並行して行われるパブリックフォーラムに建築5団体の共同参加方式で進め、JIAは東北支部を中心に委員会を立ち上げたい。

4.「JIA建築家大会2014岡山」について（亀谷理事・中国支部長）

5.「JIA建築家大会2015」について（近江理事・北陸支部長）

6.フェローシップ委員会からの報告（道家フェローシップ委員会委員長）

正会員から個人協力会員への移行は推奨されるべきではないとの見解が示された。フレッシュマンセミナー岡山の報告があった。

7.UIAダーバン大会の報告（岩村国際交流委員会委員長）

JIA主催のJAPAN FORUM及び伊藤豊雄氏の基調講演は大会中最も関心を集めた。UIAは、ドイツ、オーストリア、オランダの欧州勢が脱退、一方アルジェリア、リビア、ペルー、台湾の新規加盟あり。

8.後援名義の件（会長専決）（筒井専務理事）

9.横浜市との「まちづくり・建築分野の問題解決に係る包括連携協定」（神奈川地域会）（筒井専務理事）

10.香芝市・広陵町との「災害時の被災建物に関する応急活動等に係る協定」（奈良地域会）（松本副会長）

11.特定非営利活動法人建築文化継承機構について（森副会長）

12.その他　野村四国支部長（理事）より丹下健三氏の建築について。

11_アーキテクト.indd　21　　14.10.22　3:26:29 PM

東海支部役員会報告

今年度から愛知地域会長をしています水野です。支部幹事長は書かなくてもすむため、7年振りの支部役員会報告ですが、こんなに大変とは思ってもいませんでした。特に今回は支部財政の健全化についての活発な意見交換があり、2年間幹事長を務めながら棚上げしてきた責任を感じながら、愛知の財政も検討しながら協力をしていかなくてはと改めて感じています。

水野豊秋｜ヤスウラ設計

日　時：2014年8月29日（金）16：00～18：00
場　所：昭和ビル5階　JIA支部会議室
出席者：支部長、本部理事、幹事10名、監査2名、オブザーバー6名、欠席者1名

1. 支部長挨拶

東海支部にJIA岡山大会へ70名の参加要請があり、現在登録15名と少ない状況なので参加をお願いします。また支部の財政の健全化についての議論を進めたい。

2. 報告事項

(1) 本部報告

①第221回 理事会（8/21）（石田）　※P21「理事会レポート」参照
②CPD評議会（8/27）（塚本）
③第4回本部広報委員会（8/22）
・Video　letter　芦原会長の「2014年度JIA方針」を視聴してほしい。
・市民向けリーフレットの更新は8月中に終える予定。

(2) 支部報告

①第2回 東海支部CPD評議会（8/1）（塚本）
　第3回 東海支部CPD評議会（8/29）（塚本）
②第2回 東海住宅建築賞 表彰式及び講演会、シンポジウム（9/28）（吉元）
9月28日（日）14：00より名古屋大学ES総合館ESホール。開催案内と参加要請。
③第1回 東海支部総務委員会・会員種別一覧（8/1）（見寺）
　支部会員種別表の作成をした。支部会費など財政の問題は検討中。
④「JIA 東海支部講習会」募集（9/13）（久保田）
　9月13日の講習会の参加要請、CPDは倫理法令分野4単位。

(3) 各地域会からの報告（各地域会長）　※P23「地域会だより」参照

議事

1. 審議事項

ゴールデンキューブ特別委員会関連（関口）
①作品集出版に対するご協賛のお願いの件　承認
②第1回子どもの建築活動発表交流会と発表演題募集の件　承認
③改めて事業計画書を提出し承認を受けること、全国会議との関係を整理する。

2. 協議事項

「フェロー会員」推薦について
　静岡1名、愛知2名、岐阜1名（藤井氏予定）、三重なし、予定者の内諾を得、次回役員会承認をして10月の本部理事会に出す予定。

3. その他

①「JIA事業活動助成」申請受付開始のお知らせ（締切9/30）（久保田）
　公益事業補助金総額350万、30万／件、助成対象事業の重点分野にこだわらずに申請する。他の支部・地域会に似たような企画のないものがよい。設計競技議は申請予定。終了した事業でもよい。
②JIA岡山大会について「フッレシュマンセミナー」ほか（9/25-27）（久保田）
　大会にはぜひ参加をお願いします。「フッレシュマンセミナー」2名までは支部で交通費を負担するので声賭けをする、大会に参加登録しなくても参加可能。
③支部財政について（石田）
1. 東海支部は支部追加運営費（支部会費）は取らないで来たが、支部財政が逼迫しており、事業見直しを含めて、支部追加運営費徴収について検討したいので意見をください。小田・元支部長の時点での検討内容の説明あり。
2. 現状の地域会運営費　静岡21,000円、三重・岐阜15,000円、愛知0円（ただし事務所単位で集める、運営協力費昨年度総額90万円）
各地域会運営費はほぼ100％徴収できているとのこと。
・愛知は現状毎年約150万円の赤字で、蓄財を食いつぶしている、運営協力費も合わせて考えると250万円くらいの不足となり、1人当たり1万円となるが、地域会運営費は強制力がなく、払わない人が出たときに不公平が生まれる、できれば支部会費で徴収し、支部を支える負担もできるようにしたい。（見寺・水野）
・岐阜はそれなりに成り立っている。支部の財政が厳しければ支部会員全員で支えるべきと思う。5,000円くらい出してもいいと思っている。（山田）
・三重は非常に厳しい。（中西）
・静岡も大変厳しい状況で、イベントごとに協力をいただいている状況である。（村松）
・本部の各支部への配分方法をも参考にしながら、総務委員会でシミュレーションをしてください。その上で協議すべき。（小田）

11_アーキテクト.indd 22　14.10.22 3:26:30 PM

東海とっておきガイド㉒ | 三重編 |

池澤邦仁（池澤アソシエイツ）

俳聖殿（はいせいでん）

伊賀地域の誇りに、松尾芭蕉の生誕地であることがある。俳聖殿は俳句の巨人、芭蕉さんの生誕300年を記念して1942年、地元の個人（代議士・川崎克）が私財を投じ建てた近代和風の聖廟で、二層八角堂の木造建築。外観は芭蕉さんの旅姿で、柔らかな曲面を成す屋根は笠、その下の欄干を巡らす2階がお顔で、下屋屋根は胴と風になびく着物の裾、1階の柱廊は杖や足、という具合。仕上げは桧皮葺屋根に外壁が漆喰塗り、床は敷瓦、石積み基壇という構成。全体のシルエットに、どこか中世の中国のお堂を思わせる風情もある。構想・計画時に伊東忠太の助言を受けたと伝わる。10月12日、恒例の芭蕉祭にはお堂の扉が開かれて基壇がステージに、前面広場は式典の客席となる。今年は芭蕉さんの生誕370周年の記念の年である。

所在地：伊賀市上野丸之内117-4
（上野公園内）

月見の献立

芭蕉さんの遺墨に「月見の献立懐紙」がある。芭蕉さんは1694年の中秋の名月の夜に、自身の帰郷に合わせて門人たちが生家裏庭に草庵・無名庵を建ててくれたお礼にと月見を催した。このとき懐紙に献立をしたため、献立「八月十五夜」を自ら調理し、門人たちをもてなした。献立には葡萄酒、麩、菓子など、大津の門人で女流俳人・智月からの差し入れも含む。芭蕉さんはこの宴で三句詠み、うち一句に「名月の花かと見えて綿畠」があり、濃密なひとときが偲ばれる。この年の10月、芭蕉さんは旅先の大阪で亡くなった。

月見の献立を再現する試みもあり、催しや伊賀市内の飲食店で提供されることがある。写真は2009年9月、「月見の献立再現の会」発足10周年記念食事会で招待客に供された再現の膳。キノコの香りが記憶に残る。

再現された「月見の献立」（2009年）

地域会だより

＜静岡＞

9/13、14、15　平成26年度静岡県住まい博の建築相談員として3名参加
9/18　第１回建築フェア（中部）特別委員会
9/18　9月定例役員会
10/16　第２回建築フェア（中部）特別委員会
10/16　10月定例役員会
11/13　11月定例役員会
12/3　第2回建築家講演会。講師：前田圭介氏

＜愛知＞

9/16　講演会「建築トラブル回避法」（相談委員会）
9/18　JIA愛知プロフェッショナルセミナー2014　（研修委員会）
-建築家実務講座-「構造」シリーズ2
第1回「建築家と構造家のコラボレーション」（※詳細はP11掲載）
第2回「建築家は構造をどう包括するか」（10/2）
第3回「ＲＣ造のひび割れを減らすには」（10/16）
9/19　法人協力会主催・JIAボーリング大会
9/28　＜第2回東海住宅建築賞　表彰式・講演会・シンポジウム＞
（名大・ESホール）
10/6　建築八団体連絡会議　愛知・総務委員会
10/10　役員会　CPD研修会（法人協力会）
10/11　＜第31回東海支部設計競技1次審査＞　（名市大）
10/22　すまいる愛知住宅賞　表彰式・講演会（中区役所ホール）
10/27　愛知まちなみ建築賞第2回選考会
10/31　愛知親睦ゴルフ
11/8～9　建築家フェス ティバル2014
11/18　法人協力会企画　CPD研修会
11/29～12/13　ゴールデンキューブ賞2013/2014出版・作品展

＜岐阜＞

9/8　第２回「岐阜各務原キャンプ前プロジェクト」ワークショップ
（JIA岐阜地域会まちづくり委員会）（※詳細はP12掲載）
9/12　「みんなの森　ぎふメディアコスモス」見学会
場所：岐阜大学医学部等跡地　参加者：30名
設計・監理：㈱伊東豊雄建築設計事務所・伊東豊雄
施工：戸田建設、大日本土木、市川工務店、雛屋建設社JV
主催：JIA東海支部、協力：岐阜市市民参画部ぎふメディアコスモス開設準備課　岐阜地域会
10/29　建築研修会（研修視察会）　浜岡原発
10月開催予定　第4回役員会　18:30～　場所：ハートスクエアＧ

＜三重＞

9/12　第4回例会、第4回役員会
会員研修会2（森羅万象匠塾）～木版画家　立原位貴氏を迎えて
（※詳細はP14掲載）
10/10　第5回例会、会員研修会3（建材研修会）
11/1　第27回建築ウォッチング（草津宿場町ほか）
2/7　建築文化講演会　講師：三分一博志氏（アスト津　アストホール）

11_アーキテクト.indd　23　14.10.22　3:26:31 PM

法人協力会通信⑭
＜岐阜＞

「常に考える!」未来イズムを心に留めて

武藤　孝｜株式会社ムトー　代表取締役社長

9月17日、未来工業㈱創業者山田昭男さんのお別れの会に参加しました。

私は大学卒業後、外の飯を食うことも必要だろうと、父の会社以外に就職しようとしました。しかしバブル崩壊のあおりを受けて難航。拾っていただいたのが未来工業でした。未来工業は私には、のんびりした会社に見えました。あくせく働いている人がいないし、怒声罵声も響かない。本当に残業もなく皆が明るいうちに帰ってしまいます。あまり働いた実感がないのに給料がもらえる不思議な会社でした。

今から考えると、利益の源泉は差別化された商品群であり、3交代で24時間ラインを休むことなく働かせるから、人は汗かく必要がない仕組みであったと解ります。自動化ラインも、先輩たちが「手づくり」と言うように、大層な代物でなくお金がかからないものでした。

先輩との何気ない会話の中で、私の素朴な疑問に答えるような形で、こんなのいいよねと話がまとまったときのこと。「おっ、そのアイディアいただき！提案しよっと。500円もーらい」と先輩。そう言われると負けずに「自分も提案してやろう」とまた考えました。そんなふうに会社に提案を生み出す土壌ができていたのです。その積み重ねが、差別化につながっていました。

未来工業には残業禁止の決まりがありましたが、あるとき、「ああ言っといてな、社長は休みの日は一日中社長室におるんや」という話を聞いて、なるほどやはり社長は人の倍働かなければならないんだと妙に納得したのを覚えています。

あれから20年近く経て、社長になった私は夜遅くまで会社に残っています。しかし振り返ってみると、やっていることは何年も繰り返してきた作業に過ぎません。本当に何かを考え出しているのか、価値をつくり出しているのかと問われると、何もやっていないことに気付きます。

私に未来イズムがかけらも残っていないことに気付かされた参列でした。今一度初心に返り、「経営を常に考える！」ようにして、どんな不可能に思えるようなことも実行・実現してきた偉大な経営者の後を、少しでも追いかけていきたいと思います。

●株式会社ムトー（アルミ本部）
羽島郡笠松町田代1080
TEL 058-388-2122　FAX 058-388-8044

編集後記

●地震災害だけでなく、大雨による広島の土砂崩れに始まり御嶽山の噴火、毎週のように来る大型の台風など自然災害が続いています。今月号の「ARCHITECT」は連載をはじめ災害関係の記事が多く載っています。東海支部としても何らかの活動を検討していきたいものです。また「私の意見」として名古屋市立大学の伊藤恭行氏から「若者に公共建築設計のチャンスを」と題して今の公共建築のシステムに対して提言がありました。JIAとしても自治体などに働きかけをしていくことが望まれます。三重発にある「JIAと奈良の市町との災害時応援協定」にかかわっている森岡茂夫氏の言葉が思い出されます。「防災のお手伝いは建築家と自治体の行政がつながる良いキッカケです。また、専門家と同じくらいアトリエの小さな建築家も必要とされています」。支部役員会では地域会運営費、支部会費の徴収についての議論もあり、今後は「ARCHITECT」誌面で会員からのさまざまな意見が掲載されることが望ましいと思います。（吉元学）

●本誌の中盤はいつもJIAの各地域会の活動内容の報告となっている。JIA岐阜からは、9月号に引き続き、岐阜県各務原市でのワークショップの様子が報告されている。昨年来、岐阜地域会メンバーで、街づくり実行委員会を立ち上げ具体的な地域の策定をし、計画を進められているようで、身近な地域における着実な活動の様子に好感をいだいた。物見台・子ども屋台・空き店舗活用などについて、地域住民や市民からアイデアを募集し、それを実施していくとのことで、本活動が継続的な対話の場となるのを期待したい。

伊藤恭行氏の「若者に公共建築設計のチャンスを」という論題については、全く同感であり、若手に公共建築設計のチャンスが開かれていくために、自治体のかたがたに一歩前へ門戸を開いていただくためのバックアップや支えも必要なのかな…と思った次第である。（生田京子）

ARCHITECT
第314号
発　行　日　2014.11.1（毎月1回発行）
定　　価　380円（税込み）
発行責任者　石田　壽
編集責任者　牧ヒデアキ
編　　集　東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
建築ジャーナル内
ARCHITECT 編集部
名古屋市東区泉 1-1-31　吉泉ビル 703
TEL（052）971-7479　FAX 951-3130
発　行　所　（公社）日本建築家協会東海支部
名古屋市中区栄 4-3-26　昭和ビル
TEL（052）263-4636　FAX 251-8495
E-Mail：shibu@jia-tokai.org
http://www.jia-tokai.org/

11_アーキテクト.indd 24　14.10.22 3:26:31 PM